

---

# 月報

平成29年

11

宝塚市医師会

---



## 研修医の受け入れに関して

～地域医療病院の責務として感じる事～

逆瀬・南口地区 馬殿 正人

1992年より大学病院の研修医の受け入れを始めて、四半世紀（25年）が経過しました。その間制度自体が変わり、当初は卒後2年目以降の、現在は3～4年目の研修医（専修医）を受け入れております。

大学病院から研修医を受け入れるにあたり、当院に求められている教育方針は、より良き臨床医を育てる事であると思っております。当院に来られる研修医の多くは循環器内科、腎臓内科の専門医としての研修を希望されています。当院は1978年より人工透析を、1992年から心臓カテーテル検査を開始しており、彼らの要望に応えられていると自負しております。

当院は市中病院でもありますので、専門的な人工透析や冠動脈疾患治療だけではなく担当医として、その患者さんの合併症やすべての病態を把握して治療に当たるという責務を担っています。それは腎疾患や冠動脈疾患のみならず、一般的な受診科目の呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患などに至るまで多岐にわたります。一方特殊疾患とされる内分泌疾患や膠原病疾患においては、大学から指導医を招聘することで、その治療に際して的確なアドバイスを得ることが可能です。最近では循環器疾患の不整脈治療に関してアブレーション術を関連病院で学ぶことができ、幅広い知識を備えた人材育成に大いに寄与できると思っております。また当院での経験をもとに冠動脈疾患や透析についてのデータ分析結果を、学会で発表することで、その後の研究や臨床医としての研鑽に活かせると思っております。

研修を終えた先生方が大学に戻った後は、大学病院ならではの基礎研究、臨床研究に勤しむ方、さらなる専門性を求め冠動脈インターベンション治療、アブレーション治療、人工透析の領域に進まれる方、或いは地域医療の現場で開業される方など多方面で活躍されておられます。研修期間中は20人超の入院患者を抱え、多忙な日々を過ごしたそれらの先生達より「臨床力がついた」「学会発表のノウハウを学んだ」などのコメントを頂いております。

末筆ながら、宝塚市地域の諸先生方のご協力に深謝いたしますとともに今後もますますの努力を重ねて参る所存です。